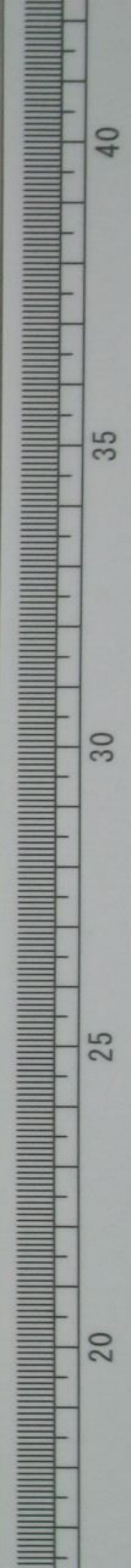




佛
諸
天
鬪
波
抄
二

利
-1264
2



俳諧天爾波抄 卷之二



五屬下

○詠属下

かか

歌にても上古はかかしのよあり中昔よりかかよえ
 まれりどりぐ中昔よりかかえ疑の解いから詠の解いられ
 ころ上古よても詠も疑もいけりよかかよえかかよえ
 も疑とりよふのぬがら解あがら詠も勿備うのむれは上
 ちいれしむらひらよかかよえかかよえかかよえかかよえ
 といもふはむらひらよかかよえかかよえかかよえかかよえ
 にもあれ今もむらひらよかかよえかかよえかかよえかかよえ
 のほとあそんむらひらよかかよえかかよえかかよえかかよえ

ナゲクトハ歎 行中の疑属のかの修トをあらやしくんぐー。 ふハ峯上ニ

息スルコナリ アルコニ日

心ウベシテ 心ウベシテ

シカラバ復りく介トモヨムベケレドカク下上ニナスハフカキ

ニ例ゆゑんひらけく麻シカの例ナリ

ニテノ目安ナリ 藤トハヒ文ガ装抄

シカラバ復りく介トモヨムベケレドカク下上ニナスハフカキ

ニ例ゆゑんひらけく麻シカの例ナリ

ニテノ目安ナリ 藤トハヒ文ガ装抄

シカラバ復りく介トモヨムベケレドカク下上ニナスハフカキ

ニ例ゆゑんひらけく麻シカの例ナリ

ニテノ目安ナリ 藤トハヒ文ガ装抄

シカラバ復りく介トモヨムベケレドカク下上ニナスハフカキ

ニ例ゆゑんひらけく麻シカの例ナリ

ニテノ目安ナリ 藤トハヒ文ガ装抄

シカラバ復りく介トモヨムベケレドカク下上ニナスハフカキ

ニ例ゆゑんひらけく麻シカの例ナリ

ニテノ目安ナリ 藤トハヒ文ガ装抄

シカラバ復りく介トモヨムベケレドカク下上ニナスハフカキ

ニ例ゆゑんひらけく麻シカの例ナリ

ニテノ目安ナリ 藤トハヒ文ガ装抄

シカラバ復りく介トモヨムベケレドカク下上ニナスハフカキ

ニ例ゆゑんひらけく麻シカの例ナリ

ニテノ目安ナリ 藤トハヒ文ガ装抄

シカラバ復りく介トモヨムベケレドカク下上ニナスハフカキ

ニ例ゆゑんひらけく麻シカの例ナリ

ニテノ目安ナリ 藤トハヒ文ガ装抄

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a single column on each page, with some lines starting with a small red mark. The script is dense and characteristic of early modern European handwriting.

くれどやまづ人を待たむしむる時をのぞく月夜なる
 こと情もなほしむるさなむかふたのありえけが
 くらむ目もなほしむるさなむかふたのありえけが
 人の目もなほしむるさなむかふたのありえけが
 情もなほしむるさなむかふたのありえけが
 やしむるさなむかふたのありえけが
 斬の況をなほしむるさなむかふたのありえけが
 春 若竹のうらみさなむかふたのありえけが
 日 幕よれ微雨さなむかふたのありえけが
 日 天明くさなむかふたのありえけが
 日 山ざりのあぢきさなむかふたのありえけが
 日 山畑の茶摘さなむかふたのありえけが
 重五

以下皆一ヲ以テ下ノ哉
ハ打合テシラセタリ

朝日ニか柳のうらみさなむかふたのありえけが
 初まのきを里中さなむかふたのありえけが
 晝もれどさなむかふたのありえけが
 あさあけさなむかふたのありえけが
 春 傘ささなむかふたのありえけが
 日 舟ゆめさなむかふたのありえけが
 日 芹橋さなむかふたのありえけが
 紙 せ翹おさなむかふたのありえけが
 荒 よしとさなむかふたのありえけが
 日 びらさなむかふたのありえけが
 日 さびさなむかふたのありえけが
 日 浅漬の大根さなむかふたのありえけが
 後似

日 月が宿えどこやう秋の空のなみけ 宗和
 続 三あつく人ふらぶがわて 葉
 日 栞の名乃五助くくも 如真
 様 病馬の病をくくも 芭蕉
 春 うちくくも花見の苗守居の 丈艸
 炭 山寺より岩掛くがの 越人
 日 並本をいふくけく 野のあつこ 臥
 様 くのりく 旅行 芦毛の馬の夜鳴け 許
 日 水庭をみくもがの 小野 夫草
 日 茶の湯くくつらふく 福古 龜表
 続 ナら夜くくづり 園のく 徳り 芭蕉
 春 雪の原 舞のふれ 岸 一りれ 望見

炭 篇の白くく 栗の穂 洪のく 游刀
 春 腰くく寸元日 里の 福やのけ 摩夕
 猿 ねくろくく 春のくく 月夜 其角
 続 年切の老木 栞の若葉 千川
 負 麦喰く 居く 野水
 飄 木のくく 汁と 鱈も 芭蕉
 炭 栞月一ト足けく 通 吉表
 日 栞一本つら 草の寸ぐ 露沾
 春 藤の花 斗井 越人
 炭 やくく 一二の栞乃夜明 其角
 猿 彼岸 一夜二夜 踏通
 炭 枝長く 湖春

荒 ちぢり刀もさしあみしぬいぬ 前障

日 しい白しんみちの神の馬を介 胡友

日 ちぢりたもはるのゆりりか 湍水

日 ちぢりたもはるのゆりりか 世麓

日 一本の若子もあまのすまひか 古雨

日 ちぢりたもはるのゆりりか 野水

日 ちぢりたもはるのゆりりか 山秀

日 大名の関やい海を 夜さるる 許六

荒 ちぢりたもはるのゆりりか 野水

かやのちぢりたもはるのゆりりか 謙の何し

ちぢりたもはるのゆりりか 謙の何し

ちぢりたもはるのゆりりか 謙の何し

席のちぢりたもはるのゆりりか 毛家のしあ

ちぢりたもはるのゆりりか 別創なる

ちぢりたもはるのゆりりか 別創なる

ちぢりたもはるのゆりりか 別創なる

ちぢりたもはるのゆりりか 別創なる

ちぢりたもはるのゆりりか 別創なる

ちぢりたもはるのゆりりか 別創なる

荒 ちぢりたもはるのゆりりか 別創なる

係 ちぢりたもはるのゆりりか 善光寺開帳

係 ちぢりたもはるのゆりりか 善光寺開帳

係 ちぢりたもはるのゆりりか 善光寺開帳

係 ちぢりたもはるのゆりりか 善光寺開帳

Handwritten text in a cursive script, likely a continuation of a letter or a personal note.

Handwritten text in a cursive script, continuing the previous page's content.

荒

芭蕉

Handwritten text in a cursive script, including a section with the characters '積' (tsukuru) and '通' (tsuyu) written vertically.

荒 日 日 日 日 春 拾 統 候 日 葉

おぬきやむじりのまきまき ゲアロ 日

くらしの暖南や冷ん ツカ のまき 菊

りんや掃 ツカ ころも ツカ ひ ツカ 尾 胡

小柑子 ツカ 栗 ツカ や ツカ ひ ツカ り ツカ 松 ツカ の ツカ 間 舟

桐の葉 ツカ や ツカ ひ ツカ ら ツカ う ツカ づ ツカ 針 ツカ の ツカ せ 小

ら ツカ てる ツカ や ツカ り ツカ じ ツカ 枝 ツカ ひ ツカ 木 ツカ 冬

紅 ツカ 舞 ツカ り ツカ や ツカ す ツカ 富士 ツカ の ツカ 湖 芭

ま ツカ の ツカ や ツカ い ツカ づ ツカ め ツカ ま ツカ 一 ツカ ま ツカ れ ツカ 羽

こ ツカ の ツカ 中 ツカ の ツカ や ツカ の ツカ 例 ツカ かり ツカ 又 ツカ 思 ツカ へ ツカ 創 ツカ かん ツカ 芭

ま ツカ り ツカ け ツカ ら ツカ れ ツカ る ツカ も ツカ の ツカ や ツカ 夢 ツカ の ツカ 柳 ツカ 芭

ま ツカ り ツカ け ツカ ら ツカ れ ツカ る ツカ も ツカ の ツカ や ツカ 夢 ツカ の ツカ 柳 ツカ 芭

あ ツカ り ツカ け ツカ ら ツカ れ ツカ る ツカ も ツカ の ツカ や ツカ 夢 ツカ の ツカ 柳 ツカ 芭

あ ツカ り ツカ け ツカ ら ツカ れ ツカ る ツカ も ツカ の ツカ や ツカ 夢 ツカ の ツカ 柳 ツカ 芭

あ ツカ り ツカ け ツカ ら ツカ れ ツカ る ツカ も ツカ の ツカ や ツカ 夢 ツカ の ツカ 柳 ツカ 芭

あ ツカ り ツカ け ツカ ら ツカ れ ツカ る ツカ も ツカ の ツカ や ツカ 夢 ツカ の ツカ 柳 ツカ 芭

あ ツカ り ツカ け ツカ ら ツカ れ ツカ る ツカ も ツカ の ツカ や ツカ 夢 ツカ の ツカ 柳 ツカ 芭

あ ツカ り ツカ け ツカ ら ツカ れ ツカ る ツカ も ツカ の ツカ や ツカ 夢 ツカ の ツカ 柳 ツカ 芭

あ ツカ り ツカ け ツカ ら ツカ れ ツカ る ツカ も ツカ の ツカ や ツカ 夢 ツカ の ツカ 柳 ツカ 芭

あ ツカ り ツカ け ツカ ら ツカ れ ツカ る ツカ も ツカ の ツカ や ツカ 夢 ツカ の ツカ 柳 ツカ 芭

あ ツカ り ツカ け ツカ ら ツカ れ ツカ る ツカ も ツカ の ツカ や ツカ 夢 ツカ の ツカ 柳 ツカ 芭

あ ツカ り ツカ け ツカ ら ツカ れ ツカ る ツカ も ツカ の ツカ や ツカ 夢 ツカ の ツカ 柳 ツカ 芭

あ ツカ り ツカ け ツカ ら ツカ れ ツカ る ツカ も ツカ の ツカ や ツカ 夢 ツカ の ツカ 柳 ツカ 芭

あ ツカ り ツカ け ツカ ら ツカ れ ツカ る ツカ も ツカ の ツカ や ツカ 夢 ツカ の ツカ 柳 ツカ 芭

「これや」ぬきやをいふもいふも 他落しとていふも 「これやの」ていふも 「これ
を」ていふもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふも
お合の行とていふもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふも
「秋の日は暮れぬまゝいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふも
くらあひらるる例なり。古今集に「あはれや」まづいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふも
お合とていふもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふも

春

一夜うす言も馬こゝ 寺かきや 野水

前句「初」は日とやをまの影 羽笠 却ヨリ兵日ハヤ
ク表勢ヲツカフハ馬カフホドノ寺ナレバニヤトノ心ニテテ
タルナリ 後句ハ「いふもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふも
二月ニ竟祭ルトイフ。即ちいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふも

夏

碎かめのあはれのみさき 此なれや 傘下

前句「雨」はまのりく程ゆふ大 傘下 大ノ向ハハイリテ於
犬ルハ醉サメノ水ノ飲タキハノ顔ノアヤシゲナレバニヤトノ心ニ
テツケタルナリ 後句「いふもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふも
コレハ雨ノ降出ノツカナルニテさあやの例ヲウケタルナリ

秋

いづりあひる小田土持のりさるや 海原

前句「か」とあひるまのりさるの例ハ此州 コレハ旅人ノ出
ル笠ノアタラキガミユルハ小田ニ土モウツナレバニヤトノ心ニ
後句「いふもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふも
テ下ナレタルハ田ニ土持ツライハフ心ニテカトノ心ニテウケタルニ

冬集序

け道のいづりあひるまのりさる 其角

コレハコノ集ノ出ルタルハコノ道ノ面目ヲホドニスベキ時
運ノイタリタレバニヤトノ心ニテ

続

弓 固くはるるや ちぢりやる 支浪

コレハ藤袴ノサキツルハ弓 固トルハナレバニヤトノ心ナリ

この例や「四例あり」ていふもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふも
二も「いふもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふも
ヤカリ、第四「いふもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふも
ワリ、第四「いふもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふも
この例や「いふもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふも

続

脊くしむゆしむせむや花のま

甲重

庚

こぶけくこぶや五月の風のま

西半

日

く月の影ワが董まもつてまじや

利半

集

まじやくくや月のまもつてまじや

芭蕉

右にぐれま何にタラバイカニ何ナラこのまもつてまじや「まや那

こつてまもつてまじや「まや那

こつてまもつてまじや「まや那

集

年の市一線香りのよ出るやふ

芭蕉

荒

まじやくくや月のまもつてまじや

誠人

まじやくくや月のまもつてまじや

まじや

まじやくくや月のまもつてまじや

まじやくくや月のまもつてまじや

まじやくくや月のまもつてまじや

まじやくくや月のまもつてまじや

まじやくくや月のまもつてまじや

まじやくくや月のまもつてまじや

まじやくくや月のまもつてまじや

まじやくくや月のまもつてまじや

まじやくくや月のまもつてまじや

まじやくくや月のまもつてまじや

まじやくくや月のまもつてまじや

まじやくくや月のまもつてまじや

まじやくくや月のまもつてまじや

冬 続

嵩の糸のなみりみよ包尾の鯛のそり 耕舌

うぐいす起よ紙 媽とがいて 芭蕉

前句「紙」は「餅」すやわやわのうから 荷すコレハ 鶯ノ元旦トモシラズアル心ヲオドロカシタル心ナリ

員

かけぐりけよ看 經の中 野水

前句「天仙夢」は冷食ありしもの香 荷すコレハ 弾ル心モナキヲオドロカセルナリ

日

うらむわ、うらの管巻の湖子みよ 越人

前句「管巻」は「糊」のこまを巻ぬ 日人コレスルヒ ニ一途ナルモノ、心ヲオドロカシタルナリ

猿

野を携り馬引むけよほくばり 芭蕉

うい出よしげやぐつ下の蟻の巻 日

菊ニ茅屋ニ子キニ けしきやぐつめはふを乃夜 斜哉

冬

我月いでよぬも ばふ流から 杜四

前句「月」は「道」をゆく 荷すコレハ 月ガ身ノナリ出ル道後タルニシ置テオト、イハレナリ

や

この巻を、きよ「あけやき」こやよんをかたよるさうり

けうがし原かり、これごとや五十五音の阿解あり 持解あり

てうの巻相みどりさわびよいじうのあしんをいんやハ

もうの物乃りぐあうさうまきだんをさうり

ナルコトヲ
オモフベシ

コレニテ、休疑ナド
ナリニツノ多一致

兼

のしんあすのしんあすわや梅もき 加生

これのしんあすのしんあすわや梅もき

あしんあすのしんあすわや梅もき

荒

あしんあすのしんあすわや梅もき

続

まき柳のさぶれくばりや馬の曲 九翁

コレハ見ルホドノ物ニキモノナキヲ、ヒキナ
ヤトハアツラヘタルコ、ロナリ

とける河ちりしきぐー。蘇のふく。ワゴの結いひしめい。あ
まぐらあつらひく。ねむらうあつらひしめい。あまの結いひしめい。あ
て。属くつらうあつらひしめい。

○近昔より。あれがとら河をまより。けふも早このり。いぢのう上
まも。おしめい。つらうあつらひしめい。

拾

瓜はくさる。実があれがとらゆい。

芭蕉

○誰しあつらひしめい。あつらひしめい。あつらひしめい。あつらひしめい。
下の衣鉢。ふらりふらり。衣鉢のあつらひしめい。あつらひしめい。あつらひしめい。
いふあつらひしめい。

焼

り。合と。あつらひしめい。あつらひしめい。あつらひしめい。

芭蕉

日

山人ののあつらひしめい。あつらひしめい。あつらひしめい。

芭蕉

日

魚あつらひしめい。あつらひしめい。あつらひしめい。

芭蕉

猿

一月も。あつらひしめい。あつらひしめい。あつらひしめい。

芭蕉

日

のしゆ。あつらひしめい。あつらひしめい。あつらひしめい。

芭蕉

日

弱法師。ワゲ門。あつらひしめい。あつらひしめい。あつらひしめい。

芭蕉

あつらひしめい。あつらひしめい。あつらひしめい。あつらひしめい。

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

Handwritten text at the top of the page, possibly a title or header.

Main body of handwritten text, appearing to be a list or series of entries, written in a cursive script.

